

今回のテーマは「消化器病漢方治療 — 理論と実践」とさせていただいた。理由は、近年進歩した科学的証明の紹介と漢方医療実践の地図を描くことを意図したからである。

まず「証」について佐藤弘先生に「『証』と『症状』と『診断』いずれを優先するか？」との論文を執筆いただいた。そのなかで“『証』『症状』『診断』のなかで、もっとも漢方薬を生かせる治療は「証」に基づくものである”とのポイントと、“『診断』『証』の順で、最後に『証』に随った治療を行うのが实际的である”とのポイントは、漢方薬処方^{りつくんしとう だいけんちゅうとう はんげしやじんとう}の順番を決めるのに重要なポイントと思われる。次に「東洋医学の消化器疾患治療法」と「西洋医学からみた漢方薬治療法」では、漢方薬の効能を両サイドからみて解説している。その次に続く四つの論文は、科学的に解明されてきた六君子湯、大建中湯、半夏瀉心湯、^{じゆんちやうとう ましにんがん}潤腸湯/麻子仁丸の作用について生理・薬理学的さらに遺伝子レベルにおける作用について紹介し、漢方薬の生物的作用の科学的証明を紹介している。科学的解説を求める人には必見である。続く4章では、消化管機能性疾患を中心に、そのほか「外科領域における漢方治療」と「がん化学療法副作用軽減と支持療法」が論じられ、機能性消化管障害に対する漢方治療の可能性、また、外科治療とがん化学療法を支持する漢方薬投与の意義を科学的に論じている。これらの論文は漢方薬の進む方向性を示唆するもので、症状を対象とする機能性消化管障害の治療に適切であることと、侵襲の強いがん治療の問題点を軽減する支持療法としての可能性を示唆している。

総じて特集全体に具体的な投与方法が明記されており、本特集号を読破することによって漢方薬の適切な使い方の地図を得ることになるのではと期待する。最後に大変に多忙のなかでこの特集の執筆をご快諾いただき素晴らしい論文を記述されたすべての先生方に衷心より御礼申し上げます。大変に有難うございました。

(屋嘉比康治)

臨牀 消化器内科[®] Vol. 33 No. 11

©2018 年 9 月 20 日発行

定価(本体 2,750 円 + 税)

年間予約購読は前金にて書店あるいは弊社宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、書店または弊社までお問い合わせ下さい。

発行人 増 永 和 也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-64 神保町協和ビル

営業直通電話(03)3291-3901(代) FAX(03)3291-3904

e-mail info@nmckk.co.jp

編集直通電話(03)3291-3971(代) FAX(03)3291-3377

e-mail gastro@nmckk.co.jp

郵便振替 00110-2-80695

印刷所 三報社印刷株式会社

・ Published by Nihon Medical Center, Inc. ©2018. Printed in Japan

・ 本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)日本メディカルセンターが保有します。

・ **JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

■ 広告申込所 / 日本医学広告社

〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-12-8 電話 03-5226-2791